

◆生育状況について JA管内 川中島白桃

	発芽	開花	満開	落花
平年	3/25	4/13	4/20	4/28
令和8年				
令和7年	3/26	4/14	4/20	4/26
令和6年	3/31	4/12	4/18	4/25

◆当面する重点作業について

1. 剪定の見直し、枝片付け、誘引を実施する。
2. 日焼け防止対策を実施する。
3. 結実の良い品種から、摘蕾を計画的に実施する。
4. 第1回目薬剤防除を必ず実施する。

【もも・ネクタリン薬剤防除】

◆第1回薬剤散布について

1. 散布時期：3月13日(金)～19日(木)頃 (発芽前) 実際散布月日 月 日
2. 使用薬剤 (混用順記載) ※調合量880当り・10a当り散布量：3500以上

農薬名	使用倍率	調合量	収穫前	病害虫
スプレーオイル	50倍	20	発芽前	アブラムシ類・ハダニ類・ウメシロカイガラムシ
石灰硫黄合剤	10倍	100	発芽前	腐らん病・アブラムシ類・ハダニ類・カイガラムシ類

3. 散布上の留意事項
 - 1) 生育状況をよく確認し、農薬登録、薬害 (枝枯れ等) 対策上、温暖無風を選び必ず発芽前に実施する。
 - 2) アブラムシ類・ハダニ類・特にウメシロカイガラムシ (最も重要) 対策として、春先防除となる。スプレーオイルを必ず散布する。(石灰硫黄合剤との混用でより効果が高まる) 樹冠内部、主幹部の上から下まで、しっかりと薬剤を掛ける事が重要。
なお、この防除を実施しない場合は、確実にウメシロカイガラムシは増加する。
 - 3) スプレーオイルに代えて、ハーベストオイル50倍 (水880当り20) を使用してもよい。
 - 4) 石灰硫黄合剤に代えて、トレノックスフロアブル500倍 (水980当り200ml) を使用してもよい。

◆せん孔病対策特別薬剤散布について

せん孔細菌病発生が心配され、開花直前散布まで期間が長くなる場合に特別散布する。

1. 散布時期：3月25日(水)～29日(日)頃

実際散布月日	月	日
--------	---	---
2. 使用薬剤（混用順記載）※調合量97ℓ当り・10a当り散布量：350ℓ以上

農薬名	使用倍率	調合量	収穫前	病害虫
固着性展着剤アビオン	1,500倍	66ml	—	—
ICボルドー412	33倍	3kg	—	せん孔細菌病

3. 散布上の留意事項

- 1) ももは、icボルドー412に代えて4-12式ボルドー液（水100ℓ当り生石灰1,200g+⑩硫酸銅400g）を使用してもよい。ネクタリンは登録がない、4-12式ボルドー液並びにicボルドー66Dは使用できない。
- 2) 住宅・駐車場の近くで汚れを心配される場合は、ボルドーに代えて、ムッシュボルドーDF500倍（水100ℓ当り200g）を散布してもよい。
- 3) アビオンEに代えて、K. Kステッカー3,000倍（水100ℓ当り33ml）を使用してもよい。この場合、K. Kステッカーは凝固するため、ボルドー液調合後に混用する。

◆摘蕾の実施について 《重要作業》

1. 摘蕾のねらい

- 1) 晩霜があるから摘蕾しないでは、適玉・高糖度のモモは取れない！
 - ①貯蔵養分の無駄な消費を防ぎ、幼果の肥大・新梢の伸長・細根の発達を助けて葉枚数を早く確保する。
 - ②生育成熟期間の短い、早・中生種ほど恩恵が大きく出る。特にあかつき、白鳳、なつっこ。
- 2) 摘果作業の効率化を図り、生理障害(核割れ・落果)の軽減をするため、重要作業。
 - ①鈴なりの果実を一度に摘果して落とすと、生理障害の原因になるが、摘蕾では、影響が少ない。
 - ②摘蕾⇒(花摘み)⇒予備摘果⇒仕上摘果⇒見直摘果と、順々に落とす。

2. 実施時期

- 1) 早い⇒効果高い・作業性悪い 遅い⇒効果低い・作業性良い・葉芽を傷めやすい。
- 2) 花蕾が丸く膨らみ、先端にピンク色の花弁が僅かに見え始めるころから開花までに行う。
- 3) 早くから実施すると、作業効率は低下するが効果は高い。

【表1】 摘蕾程度の日安

	強 ⇒ 弱			強 ⇒ 弱	
樹齡	老木	若木	せん定の程度	弱	強
樹勢	弱	強	核割れ・変形・生理落花	少	多
花粉量	多	少	施肥量	少	多
結果性	良	不良	凍霜害の危険性	少	大

3. 実施方法

- 1) 葉芽をきずつけないように薄い手袋をはめて行う。
- 2) 長・中果枝は、片方の手で枝の先端をつまみ、他の手で先端から基部に向けて、蕾をこすり落とす。
- 3) 親指と人差し指で軽く挟んで、上下の蕾をしごいてもよい。短果枝は指先で枝をもむようにし、落とす。

4. 品種別摘蕾の程度

結実が確保できる場合は、初期成育向上、玉肥大向上、核障害低減を目的とし基準より、「強い摘蕾」を実施してよい。

1) 樹勢の判断は、長果枝の割合が20%を越えるもの及び、徒長枝の切り口が目立つものは強いと判断する。川中島白桃はある程度落として、人工受粉を徹底する。

2) 全蕾の70~80%落としてよい品種：白鳳系・あかつき・なつっこ

3) 50~60%落としてよい品種：白根白桃・水野ネクタリン

4) 軽く落とす品種（毎年結実が安定している場合は、多めにおとしてよい）

：川中島白鳳・川中島白桃・黄金桃・スイートリッチ・サマークリスタル・メイブランド
・スイートクリスタル・フレーバートップ・ファンタジア・秀峰

5. 実施上の留意事項

1) 人工受粉用に採花する場合は、摘蕾の程度を軽くして残しておく。

2) 若木は樹形作りを第一に考え、主枝・亜主枝の先端部の蕾は全部落とす。特に主枝・亜主枝の延長枝は、側枝の先端も摘蕾し、垂れ下がり防止に努める。

3) 長果枝の基部15cm間の直上芽は、同時に芽かき(芽こき)して徒長枝の発生を未然に防止する。

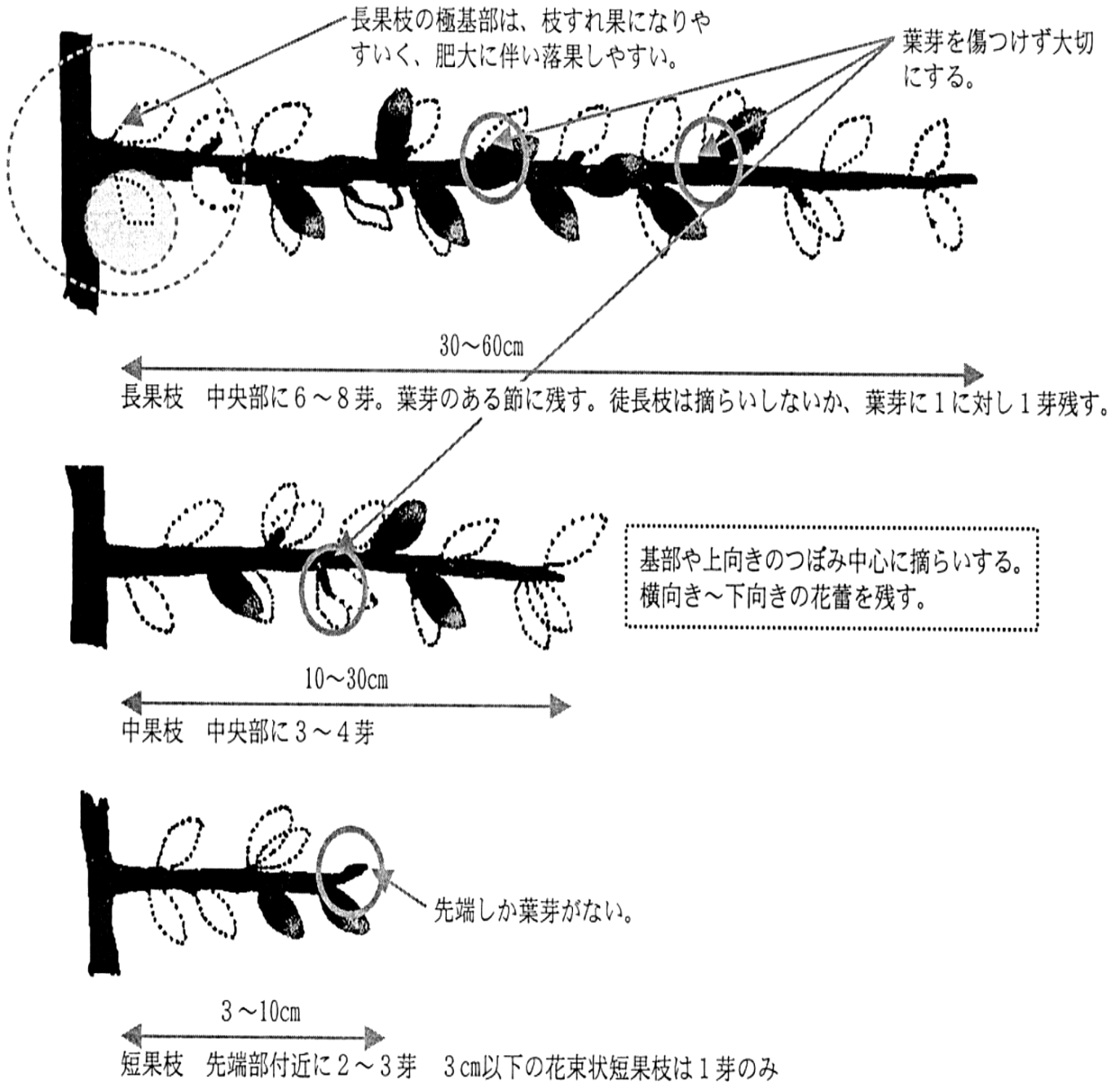


図1 結果枝別の摘蕾要領(基準)
蕾を残す位置の目安
※強い摘蕾は、この半分を目安にする。